



特別活動プロジェクト研究通信(No. 8)

「なりたい自分に向けてがんばる力」を育てる小学校の特別活動
—学級活動における個々の意思決定とそれに基づく実践の充実を通して—

11月12日(火)、滋賀県総合教育センターにて、第5回研究会を開催しました。研究会では、半年間の研修と授業実践を振り返り、本研究の成果、課題、課題を改善するための手立てについて協議しました。また、県教育委員会事務局幼小中教育課 川端 清司 主査より「さらなる特別活動の充実に向けて」と題し、指導助言をいただきました。研究協議で見いだした手立て、川端主査の指導助言から得た学び、研究委員の先生方の半年間の振り返りを中心に紹介します。

指導助言より

どのようにして、学級活動(2)、(3)での学びを他の特別活動で生かすのか

委員会活動の様子を見ていると、例えば給食委員会が「給食月間で取り組む目標を決めましょう」と学級に投げかけることがあります。それに対し、例えば、「残食を0にしよう」など、学級で1つの目標を決めて、みんなで取り組むとします。そうすると、容易に目標を達成できる子はいいいですが、そうでない子は同調圧力を感じ、しんどい思いをするかもしれません。子どもが学校を楽しめない原因の一つが同調圧力です。

しかし、指導者が「学級活動(1)では合意形成を図り、学級活動(2)、(3)では個人の意思決定をする」ということを理解し、授業実践をしていけば「今回は人権の目標を学級で決めて、みんなで取り組んでください」「今回は給食の目標を個人で決めて取り組んでください」といったように、委員会からの投げかけ方も変わってきます。個人の目標を立てて取り組むことで、子どもはのびのびと活動でき、「自分は自分でいいんだ」と考えられるようになります。

学級や学校の課題を解決したいとき、「学級活動(1)で解決するのか」「学級活動(2)、(3)で解決するのか」と、選択肢をもつことが大切です。



滋賀県教育委員会事務局
幼小中教育課
川端 清司 主査

半年間の研究を振り返って(研究委員の先生方の振り返りの一部を紹介します)

児童にどのような変容が見られましたか？

- 具体的な目標を決める、実践できる児童が増えた。
- 目標をもって取り組むことのよさを少しずつ実感している児童が増えた。
- 寄り添おうとする姿勢や手を取り合おうとする姿勢に変化が見られた。
- 個人目標を立て、振り返り、友だちとの交流やアドバイスをし合うことで、前向きにやる気をもって学校生活を送ろうとする児童が増えた。
- 清掃活動や運動会に向けた取組など、自分の役割を自覚して、自分にできることをしようとする児童の姿が見られた。

先生方御自身のどのような変容を感じましたか？

- 学級活動(2)、(3)で扱う題材の内容が十分に理解できておらず、授業の流れもイメージし切れていなかったが、研究を通し、授業の流れや、必要な手立てが分かった。
- 目標を立てて実践し、交流を重ねながら振り返る活動は、他教科や他の場面でも生かせると感じた。
- 学級活動を行う上で、学年の系統性が反映された年間指導計画が必要であることを実感した。
- 児童のキャリアを形成するには、一つ一つの取組がそこで終わってしまうのではなく、大きなゴール(なりたい自分)を見据えて進めていくべきだということを強く認識するようになった。

編集後記

学校にいた頃の学級活動に関わる自分の実践を振り返ると反省点ばかりです。

【私の反省点】

- 学級で問題が起きたら、自分が主導し、子どもを諭して解決を図る。
- 何か学級で問題が起きれば、何でも学級の議題に取り上げて、みんなで目標を決める。
- 学期の初めに、半ば参観日の掲示物を作るという目的で個人の学期の目標を決めさせる。
- 目標を掲示しただけで、子どもがその目標に向けて取り組んでいるかに目を向けられていない。

決して不真面目に取り組んでいたつもりではありませんでしたが、反省点ばかりです。学級活動(2)、(3)の重要性を知った今、再び学級活動を行う時は、子どもに「なりたい自分の姿」を考えることや、人間関係を育みながら目標を決めることの大切さを伝えたいと思います。

実践校の先生方へ

今回、小学校プロジェクト研究に参加してくださった4名の研究委員の先生方は、この研究を通じて、学級活動(2)、(3)の知識・技術などを獲得し、それを具現化された貴重な実践者であると考えます。ぜひ、研究委員の先生方から、学級活動(2)、(3)について、授業の進め方や講じる手立てなどを聞いてみてほしいと思います。「目標ボード」や「なりたい自分になりまシート」も使ってみていただけると嬉しいです。きっと学級経営等に役立つことがあると思います。また、研究委員の先生方の出張への御配慮、質問紙調査への御協力など、本研究をサポートしていただき、ありがとうございました。

研究委員の先生方へ

子ども想いで熱心な4人の先生方と素敵な子どもたちに出会え、研究以外のことも、数多く学ばせていただきました。授業について、先生方とともに熱く語り合った時間は私の宝物です。本当にありがとうございました。これからも特別活動を推進していきましょう。

トータルアドバイザーである帝京大学教育学部 安部恭子教授、また専門委員である県教育委員会幼小中教育課 川端清司主査には本研究を推進するにあたり、貴重な御助言を数多くいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に宣伝です。令和7年2月14日(金)に、滋賀県総合教育センターで、第67回研究発表大会を開催します。小学校特別活動を含め、10篇の研究発表を行います。お時間が許しましたら、ぜひお越しください。

また、年度末には当センターHPに、研究論文、研究成果物等を掲載する予定です。そちらもどうぞ御活用ください。



滋賀県総合教育センター 研究員 中波 慎